

今日から、わたしの指定席。



スーツを着ることなんて、きっとないだろうと思っていた。誰でもいいような仕事しか、させてもらえなかった。きらきらした目の人たちが、うらやましかった。仕方ないんだと、あきらめていた。

主治医の紹介で出会った職員さんは、なぜか明るかった。口下手な私の話を、最後まで一生懸命聞いてくれた。そして、こう言ってくれた。「あなたなら、大丈夫。一緒に夢を追いかけませんか？」心があつたかくなった。気づいたら、頬が濡れていた。

訓練はいやなこといっぱいあった。朝、体が動かなくて泣きたくなった日もあった。でも、職員さんはいつも言ってくれた。「あなたなら、大丈夫。」本当に私のことをわかっているの？と思ったけど、目の前の笑顔は哀しい目をしていた。もうちょっとだけ信じてみようと思った。

ちょっとずつ、できることが増えていった。失敗もだんだんと減ってきた。友達が増え、笑っていることが多くなった。夢が少しずつ近づいてきている気がした。

合格通知が届いた日、職員さんとふたりだけでパーティーをした。家族じゃないのに、本当の家族より嬉しそうだった。

今日から、あたらしい世界で生きていく。
スーツはなかなか慣れないし、本当に働けるのか不安でいっぱい。
でも、頑張れる気がしてる。
職員さんのあの日の笑顔を、こころのお守りに。

就労移行支援事業所ピオニーでは、こころの病気を抱えながらも「働きたい」という思いを持つ方に、就労に必要な力を身につけ、課題を解決するためのお手伝いをしています。